

取組みの概要及び採択理由

応募テーマ	現代的教育ニーズ取組支援プログラム (テーマ1：地域活性化への貢献(地元型))
取組名称	医療系学生の保育所実習による子育て支援
取組単位	医学部
取組担当者	統合医療教育開発センター 助教授 寺嶋吉保
<p>取組の概要</p> <p>子育て支援を大学教育の一環として行なう。子育て支援は地元活性化の重要課題であり、医学生や看護学生などを1年次の共通教育の必修単位として、地域の保育所実習と子育て支援関連の自治体の事業に参加させる。保育所では医療系学生が数ヶ月間、毎週乳幼児と1対1の交流実習を行なう。園児には、毎週定期的に特定の大人が向き合う時間を持つ事で情緒的にも安定した生育が期待でき、保育士の負担軽減と保育レベルの向上も期待できる。</p> <p>医療系教員(医師・看護師)が毎週現場で安全確保と指導にあたると同時に、保育園児の育児・健康相談を行い、子育て支援などの問題点を市政に提言して地域の福祉医療に貢献する。</p> <p>学生は乳幼児との交流を通じて、医療人として不可欠な「人の役に立つ喜び」を感じ、「乳幼児期のヒト」と「親」を実体験的に理解して、相手の気持ちを察する感性を磨く。また将来地元で母子保健や小児医療を担う人材となることも期待できる。</p>	
<p>採択理由</p> <p>本取組は、医療系学生の実践的な経験・実習の場を地域の保育所に設定し、子育てを継続的に実体験することによって、学生自ら人間力を培う新趣の教育プログラムです。保育所を教育現場とする教育は、看護学科の学生にとってはこれまでも行われてきましたが、医学部学生に対しては全く新しい試みであり、子どもと接することにより命の大切さ等を実感することが期待されます。また、具体的な教育プログラムが設定されており、演習とそれに続く実習により子育ての実践とその意義を十分に習得できる仕組みになっています。また、教職員による学生のサポート体制にも配慮が行き届いており、大学と地域(保育所等)の密接な連携の下に新たな信頼関係を構築できるものと期待します。</p> <p>しかし、事前教育を徹底することで学生が保育所等の教育現場で実習する際のリスク管理に対して十分な自覚を持たせることは極めて重要であり、今後の検討課題です。</p>	